京城新聞

●外國貿易旬報（關税局調査　十月中旬）

本旬

區別	本年分	前年同期
輸出品價	三八、〇一三	三七、七一〇
輸入品價	一、一六六、一七八	一、六二八、四六六
合計		
輸入超過	一、〇八四、六九〇	一、九五六、一七六

本年貿易額の港別左の如し

本旬分

港別	輸出額	輸入額	計
仁川	四九、三六六	四五七、一二四	五〇六、四八〇
釜山	一五六、五七五	二六五、三七四	四二一、九四九
元山	一〇、四九七	四六、〇一一	五六、五〇八
鎭南浦	四三、八九六	一〇〇、一九五	一四四、〇九一
京城		一〇六、九八三	一〇六、九八三
群山	三、一〇三	一八、八七三	[illegible]
木浦	三、六一六	一九、八八一	二三、四九七
馬山浦	三、八三三	三、八六一	[illegible]
清津	三二二	六、四四一	[illegible]
城津	六、三六	五、五六	[illegible]
新義州	一四、六三二	一一七、〇三〇	一三一、六六二
計	三一八、四一三	一、一六六、一七八	一、四八四、五九一

次に本年各港の貿易額を前年同期に比較すると左の如し

前年一月以降本旬迄の累計

港別	輸出額	輸入額	計
仁川	二、七〇七、七九九	一六、一七三、一二六	一八、九二〇、九二五
釜山	三、三一四、四二九	六、六六八、九八二	九、九八三、四一一
元山	八八六、八六五	二、三七九、七二三	三、二六六、五八八
鎭南浦	一、二六〇、七七七	三、〇四四、八六九	四、三〇五、五四六
京城	二三、三三六	一、七六六、七一八	一、七九〇、〇五四
群山	一、二四七、八九〇	六〇三、五二二	一、八五一、四一二
木浦	一、〇二九、五二四	五二九、一二三	一、五五八、六四七
馬山浦	三二八、九九九	六九五、五〇八	九二八、四六七
清津	一八〇、一一四	二〇九、〇二〇	三五九、一三四
城津	[illegible]	[illegible]	[illegible]
新義州	[illegible]	[illegible]	[illegible]
計	一、二六七、七七七	三一、五六二、〇九九	四三、八二九、八九六

●輸出重要品表●

品名	本旬 本年分	前年同期
米	二九、五〇一	九二、三四六
大豆及小豆	二二、六四五	一四三、七〇一
鮮魚乾魚鹽魚	六、八七八	一、六八二
牛皮	一八、三二一	二〇、八六一
人參	—	—
棉花	二三〇	五九
生牛	一一、三三二	三一、九〇六

●輸入重要品表●

品名	本旬 本年分	前年同期
食鹽	一三、一八六	一八、五五四
砂糖及精糖	八、五三八	一七、六〇五
清酒	二四、五五八	三七、八二六
石油	二二、二八八	二一、一〇四
打綿	一六、八一〇	九、六六五
綿織糸	八〇、八九六	九一、八〇二
生金巾及シーチング	一八七、三〇五	二〇八、三九六
晒金巾	四一、〇三〇	六三、九三〇
日本木綿布	七二、八七一	四七、七七三
麻布	六〇六	二六九
絹布	二、九二四	八五、四八七
紙	一五、六八三	一五、一五六
石炭	二九、三九〇	二、四三〇
熟鐵	六、六六三	一三四、〇二六
烟草	一七、五二九	四五、六九九
木材（鐵道枕木及板を併す）	二九、三五三	一六、五〇五
セメント及石灰	一六、三三六	一六、六三二
マッチ	一一、八二五	一一、六七〇

(新刊紹介)

●會報● 東京外國語學校韓國校友會より發行せるもの論説には農商工部大臣の「人類と言語との關係」鮎貝房之進氏の「壬辰史料」上村正巳氏の「韓國語文考」等あり其の他講演通信雜纂等却々に見るべきものあり

(四十八)　河合柳葉

お君は一入聲に情を含み、

「私、お屋敷へ上つてからの事思ひますと何だか哀しくなつて參ります。」

又も涙を袖に拭ふて、

「ですから、眞個私を行末永くお側に置いて下さるお心がございますなら、どうぞ私の安心するやうに、御前樣の御直筆で其事をお認めなすつて下さいませんか、でござりませんと、恁うしてお側に居ながらも、些とも安心致してお仕へ申す事が出來ませんゆゑ、自然御氣に召さないやうな不行屆が出來ないとも限られません、左樣な不調法がございましては何より殘念に存じます。」

と、情を語る如き艶かしい眼色で、訴へるやうに爲雅の顔を見れば、

「なに、予が行末見棄ぬと云ふ證を認めてやれば、安心して側に居ると申すのか、宜いとも、宜いとも、那樣事なら何時でも認め遣はす、安心するが宜い。」

お君は溢るゝばかりの愛嬌を湛ゑ、

「有難う存じます、それさへ認めて頂きますと、眞個安心して御奉公致します、ではどうぞお忘れにならない中に、明朝お認め遊ばして下さいまし、呉々もお願ひ申します。」

「うむ、明朝必ず認め遣はす。そしてお前が安心致すために、萬一暇を遣はすやうな事があれば、一生不自由をせんやうに三萬圓の財産を遣はすと云ふ事を書添てやらう、それならば猶更安心で宜からう。」

「はい。然う認めて頂けば這麼結構な事はございませんけれど、其も是もみんな御前樣をお慕ひ申すからの心配ゆゑでございますれば、どうぞ可愛相だと思召しましてお見棄ないやうにお願ひ申します。」

「予が戀ひ焦れて貰つてお前を、何で見棄て宜いものか、お前ばかりぢやない、東京に歸る時は宗匠も共に歸る約束だから、必ず心配せんが宜い。」

かくて其夜は喃々たる情話密に、樂しみ多き夢路に入つたが、翌朝になるとお君は爲雅に迫つて、昨夜約束した一書を認めさせて、嫣に微笑つゝ、

「本當に私こんな嬉しい事はございません、これをお認め下さるならば、假令お見棄なさるまでも、見棄られない事だと安心致してお側勤が致されます、どうも有難う存じます。」

「就きましては、誠に我任意なお願ひでございまするが、御前にも今日は伏見へ御散歩遊ばすやうなお話しでございましたが、若し伏見へお出で遊ばすのでございますれば、其の御留守中に些つと宅まで遣つて頂きたうございますが、如何でございませうか、遲くとも夕方までには必ず歸つて參りますが……。」

「モウ宅が戀しくなつたのか。」

「いゝえ、然う云ふ理ではございませんけれど、呉服屋へ種々注文して置きました物もございまするし、兄もお屋敷へお供してからの事など、大層心配して居りましたゆゑ此のお墨付を拜見させて安心させたいと存じまして。」

「では往つて來るが宜いけれど、しかし必ず夕方までには歸つて來んければ困るよ。」

「はい、必ず歸つて參りますゆゑ、どうぞ寸時お暇をお願ひ申します。」

「歸つたら宗匠へ宜しく傳へて下れ。」

「有難う存じます、左樣申聞せまするでございます。」





▲無料紹介欄▼

人事部

●新聞社の校正係又は外交員を希望す年三十五元刑事且つ活版事業に經驗ある者　氏名在社（五…）

●求婚　本年二十八月收八十圓血統正健十八九の良家の淑女と結婚したし　氏名在社（六…）

●外交係入用　市内保證人あるもの本人來談を乞ふ　南山町二の一七三農商工組合事務所（六…）

●弟子入用　但し十四五歳のもの　氏名在社（六…）

●求婚　年廿六血統正係累無月收五十圓　姿不問廿歳前後体健血正の女子と結婚したし　氏名在社（七…）

京城又は附近にて豆粕の製造所又は販賣あらば御知らせを乞ふ　氏名在社（七…）

●被雇度　朝九時より午後三時迄の間雇はれたし給金不望年十九保證人あり　氏名在社（七…）

●夜間自宅にて筆耕に從事す御依頼の方あらば御申越し次第參室の上委細承致すべし　姓名在社（七…）

仲居入用　年齡十七年より廿五六年者一名入用但料理店に心得の有る者なれば宜し　大和町一江戸當（七…）

熊本縣人　市下確氏の消息を知りたし　ヌ生（七…）

●年齡廿五歳（妻帶者）會社銀行等の小使に雇はれたし　姓名在社（八…）

●十四五才の小僧入用　但身元引受人を要す　氏名在社（八…）

清語　夜間七時より九時迄教授す　南大門通南門內裏相生町　清語速成學舍（八…）

物件部

●經營開業中の處突然歸國の不得已に依り醫療器械藥品及び患者付の儘にて至急讓渡したし　姓名在社（四…）

●貸間　本欄人事部に御答申すオンドル一間疊貳枚敷餘か庭園尤も雅にして閑静は御來談を乞ふ　永樂町佛教會裏山田（七…）

●古着道具買たし　本町七丁目一六號貸（…）

●貸地　旭町一丁目の山の手にて風景の土地家屋附にて讓りたし御望みの御來談を乞ふ　姓名在社（…）

一本町より明治町に入三軒目空地三十坪附の貸家あり　櫻井時計店（…）

裁縫、刺繡、編物、造花、摘細工、英語教授　和服仕立物御注文に應ず　大和町三丁目廿六番戸　古谷（八…）

貸地　本町　龍山十五間道路南大門外　坪割貸　四ヶ所　拌物店電三二一番（八…）

●至極輕便なる方法にて貸金の相談に應ず　但照會封書　黃金町統明館內（…）

京城評論

商業會議所聯合會

商業會議所聯合會不日開會せられんとす、余輩は此聯合會の決議が半島經濟上に多大の効益あるべきを信ずるを以て其會議に注意を拂ふと共に會員諸君に一言するの止むべからざるを覺ゆ、

聯合會の議すべき議題や多し、日韓關税同盟、拓殖銀行、拓殖會社の經營、暴徒の經濟上に及ぼせる影響、金融問題、貿易の發展等何れも半島經營上重要問題にして之れを遂行する方策に就て最も善良なる手段を研究討議して當局者の參考に資し、一般に對しては其據る處を了知せしめざる可らず、實に聯合會の決議は半島經營の指針たるべし、其任務や頗る大なり、之に會同せらるゝ諸君は在韓實業家の選良にして、實際の經驗に富めるを以て其議する所や必ず穩健着實なるべく、到底机上論客の放論と同視すべからず、余輩が半島實業界の羅針盤として斯會を敬重する豈故なしとせんや、聯合會は政治上の團体にあらざるを以て猥りに政治問題に立入る可らざるも、此等重要なる經濟問題を討議するに當りては、勢ひ多少政治圈内に及ぶ事なきを保せず、殊に大綱を捉へて大体論をなすに於ては政治上に渉るの止むを得ざる場合あり、經濟は多く政治に伴ふ、經濟論をなさんとすれば勢ひ政治論に及ぶべし、此點に就ては當局者も寬容なる態度を以て充分に其利害を討議せしめ、可成其決議を採るの雅量なかるべからず、

本會に於ては既に懸案問題となれる日韓商業會議所聯合問題も議題に上るべし、彼我の程度相異るを以て之を聯合すること甚だ困難なるべしと雖も、早晩此問題は決定せらるべきものならん、日韓人共同して漢城市の經營をなすときに於ては無論之が聯合をなさゞる可らず、今よりして聯合に就ての關係を研究するも無益の事にあらざるべし、

聯合會に於て最も愼重なる討議を要するものは商業會議所の資格問題なり、居留民團は法律上邦人となりたるも商業會議所は未だ邦人たらず、故に其會費の如き徴收上の不便少からず、從て會議所の費用は常に乏しく之が爲に總ての調査も充分に爲す能はず、現在の儘にては商業會議所は意の如く活動する能はざると共に社會に對して充分なる貢獻を爲し得ざるなり、眞に商業會議所として實業界の指針たらしむるには財源を得ざる可らず、歐米各國に於て商業會議所が多大の勢力あるは財源豐にして能く諸般の調査をなし得ればなり、在韓商業會議所をして其職責を充分に盡くさしむるには邦人團体として費用徴收の便を得るか、會員組織として會費を收むるか二者其一を定めざる可らず、會員組織とすれば單に商工業を限らず廣く各階級を網羅するに於ては財源を得るに難からざるべし、有用欠くべからざる團体をして財源なき爲に充分の活動をなし得ざらしむるは甚だ遺憾とせざるを得ず、從來邦人の發展せざる時に於ては現時の組織にて差支なかりしも、今や既に時勢に適合せず、此機會に於て宜しく之を確定して其職責を發揮せざる可らず、余輩は此等總ての點に就て適當なる善後を講ぜられんことを期待して止まざるなり

漢城便り

▲東洋拓殖會社の株式募集も[illegible]相成申候內地經濟上の有樣は一昨年來の創痍多少癒えたるの觀ある今日の事故東京大阪は申すに及ばず他の地方に於ても相應に應募者有之候事と存候

▲午併一般に於ては未だ眞に經濟的恢復を爲したる譯にも無之次第なれば此際東拓の株式を以て投機者流の玩具となし五圓十圓のプレミユムに權利株の賣買を爲さしむるは事小なりと雖も折角眞面目に成掛けたる我實業家を未だ不眞面目に立戻らしむるの動機とならずやと憂慮被致候

▲在韓邦人中の有力者を創立委員に加へざりし事は半島邦人中に在つて株式募集に障害と相成候事は常識を有する者の知るところに有之候但し移住民中[illegible]んとせずとの心掛ならば夫迄[illegible]は余りに放心の次第と存候

▲半島移住民中の有力者が其金力に就て三井や三菱や將た住友や鴻池に及ばざるは勿論の事に候得共而かも彼等[illegible]すは單に金力の點のみにはあらで二十年三十年間半島の氣候政變其他[illegible]因つて得たる貴重の經驗を有する[illegible]之候

▲余輩の見を以てすれば拓殖[illegible]て日本政府の方針は段々西班牙式と相成候而して移住民の有力者を無視するの點に於て西班牙式を發揮致居候之實に[illegible]ことにして此誤れる方針は余輩を以て是非變改せしむるの必要[illegible]候

▲仁川築港の問題再燃致候由當然の事と存候精神一到何事か成らざらん努力を以てすれば必ずや目的を達し得[illegible]候仁川人士全体の決心は如何に[illegible]自家の生命を保持するの所以に[illegible]

▲來月中旬統監の歸任を俟つて日韓側大小の官吏に異動陶汰有之べく[illegible]候其所此所の役人達省みて心當りあらば今より荷拵し置くも決して早からずと被存候

東京電報

▲米國に於ける對日感想

桑港發電に依れば米國に於ける對日感想は兩國間の親交を切實に希望しつゝあり

▲日英米同盟賛成

米國の輿論は日英米三國同盟説に賛成し極東問題は之れに關係ある列國相互の了解に依りて容易に調定するを得べしと一般に思考せり

▲米國民の友情增進

日本に對する米國民の友情は艦隊に對する歡迎に因りて大に增進せり（以上二十日發）

雜報

●伊藤統監の歸任期

伊藤統監には過日の元老會議に於て辭表を提出せられしも陛下は之を御聽許あらせられざりしを以て愈よ來る十一月二十日頃出發歸任せらるべしと

●獨逸新聞記者の謁見

目下入京中の獨逸新聞通信員フォン、ジーガー、ペンター氏は昨日午前曾禰副統監に伴はれ韓皇帝に謁見し敬意を表したり

●妻木博士の獻品

廿四日韓皇に謁見したる大藏省技師工學博士妻木頼黄氏は左記の國産を獻上せり

皇帝へ　天鵞絨友仙　壁掛一張

皇后へ　刺繍屏風　一隻

●大韓醫院開院式

既報大韓醫院開院式は昨廿四日同院境内に於て擧行せられたり、其順序は來賓の院内巡覽に始まり夫より妓生舞倡優郷童舞歌の面白き餘興あり次に天幕場内に於て式を擧ぐ始めに隆熙帝の勅語あり第二に佐藤院長式辭を朗讀し續て内部大臣の祝辭曾禰副統監の祝辭等あり式後暫くは獻酬に時を移しソレより男女の來賓皆打連れて同模擬店に赴き互に欲するところを訪ひ興の果てざるに隨時退散したり、此日の來賓は隆熙帝の勅使を始とし曾禰副統監長谷川大將各次官參與官韓大臣其他無慮千百名餘にして院長佐藤博士は之等大數の來賓に一々叮嚀なる挨拶を爲し近來稀に見る盛會なりしと云ふ、尚詳細は次號に報導すべし

●曾禰副統監の祝詞

昨日擧行されたる大韓醫院開院式に於て朗讀されたる曾禰副統監の祝詞は左の如し

本日を卜して大韓醫院の開院式を擧げらるゝに當り本官も亦之に列するを榮とす抑も本院の設立は曾て宮内府内部及學部に分屬せる赤十字廣濟の二病院醫學校の設ありて各々其特長を備へると同時に又其の短所を免かれざるものありしに因て之を合して長短相補ひ以て完全整備の官立病院を興し專ら文明的嶄新の醫術に藉りて博施濟衆の本義を發し又之れに教育部を附して醫學上新智識の研鑽に資し以て斯業の發展を期するにあり今や施舍の建設成を告げ馬頭山翠松の間巍然として大厦の屹立するを見る頃に城東の壯觀を添へたり其掃造組織の完備其職員技術の超越韓國に於て未だ曾て其類を見ざる所其礎愛に成り實行の期已に到る職員諸子各奮て其職に從事せんか愛嚢の術到別技幾多の病者及創痍者をして起死回生其効驗の著しきに謳歌せしむるや必せり韓皇陛下慈仁切に民生を念とせられ新に本院の爲めに内帑を下し窮民施療の資を賜はりたり其の元々を愛撫さるゝ軫念於是乎至誰か豈に聖恩の渥に感泣せざらんや希くは職員諸子相共に激勵其職責を遂行し韓國に於ける文明的斯業の先驅者として其本分を發揮せられんこと是れ本官の切に望む所一言以て祝詞に代ふ

十月廿四日

副統監從二位勳一等　曾禰荒助

●大韓醫院へ勅使差遣

昨日の大韓醫院開院式に韓皇には侍從院卿尹德榮を勅使として派遣せられ優渥なる勅語を賜はりたり

●醫師法發布説

韓國にては從來神農遺業と稱し草根木皮を以て患者に與へ居りしが近頃賣藥業者にして傍ら醫療を施すもの少からず危險甚だしきを以て内部衞生局に於ては醫師法を發布し此等危險を防がんとの説あり

●被害清人に下賜金

客年八月以降韓國暴徒の爲め殺害せられたる又は家屋を燒毀せられたる家主史新棠に金十二圓韓國より清國領事の手を經て夫々下賜せられたり

●農商工部の實業家招集

農商工部は昨日京城内の韓人銀行家實業家の重なる人々數十名を招集し東洋拓殖株式會社株式募集に關し趙農相木内次官より説明する所ありたり

●鐵道用地代支拂

京義線鐵道線路用地賠償金支拂は龍山以北高陽交河坡州三郡及黄州鐵山龍州義州の四郡に對し支拂を開始する旨臨時軍用及鐵道用地調査局長朴義秉氏より通牒せり

●軍隊歸還

第五十二聯隊の將校以下百八十三名は廿四日午前十一時三十五分龍山發歸還せり

●暴徒と地方の狀況（續き）

△尚州管區　平穩なり

△晋州管區　西部は尚不穩の狀態にあり咸陽、河東郡地方に出沒する賊は智異山を根據として出沒するものと認む本期間同地方に於て約三十乃至六十の賊出沒せり

△榮山浦分隊管內　前期に比し賊徒の出沒減少せしも全羅北道に近接せる地區潭陽長城靈光郡地方には約二十名乃至七十名の賊出沒せり又南部海南郡地方に約二十名の賊出沒し中部綾州郡内にては約三十名の賊出沒せり而して賊勢に就ては著しき變化を認めざるも我衝突を重ぬるに從ひ賊は其行動を實驗し近來より巧に地形を利用して奇襲を行ひ其集散集合の狀進歩せるものゝ如し

△康津管區　光陽郡地方には今尚約二十名の賊出沒して海南郡地方にては實業會社の倉庫を襲ひ之に火を放ちて燒失せしめたり

△光州管區　全羅北道に近接せる潭陽長城郡地方には今尚百名より多からざる賊徒出沒し又綾州郡内には約三十五名の賊出沒し憲兵を狙擊し其他光州郡地方には少數の賊出沒せり

△榮山管區　前期に比し賊徒の出沒は少なし本期間羅州郡及務安郡地方にて少數の賊徒出沒せり又北部靈光郡地方に尚二十名内外の賊徒出沒せり

△咸鏡分隊管區　前期間と大差なく靜穩なるも本期間四五回の衝突ありたるも著しき活動を見ず賊魁供範道車道善等の徒も其勢力漸次衰頽し歸順者續出するに至れり歸順者は我監視の下に餘念なく各自其業に就き居れり而して目下管内に出沒する賊徒は多く發徒にして只管食餌に窮し此種の掠奪に努め居れり

△會寧管區　一般平穩なり前期間李範允の一派來襲すべしとの情報ありたるを以て今尚豆滿江一帶の地區を警戒中なり

△鏡城管區　概して平穩なりと雖も本期間鏡城南方六里の地點に賊徒出沒し之を擊退せり

△端川管區　前期間明川を襲ひたる賊徒は今尚其跡を絶たず本期間同地方にて守備隊約五十名の賊を擊退す

△甲山管區　概して平穩なるも少數の賊徒出沒する情報あり目下賊徒の隱匿せし武器の押收を兼ね賊徒の搜索中

△北青管區　平穩なり

△長津管區　長津地方は今尚不穩なり本期間約十五名乃至五十名の賊と二回衝突せり

△咸興管區　前期間と大差なし洪原郡地方にては約三十名の賊は尚其跡を絶たず本期間咸興郡内にても亦約五十名出沒す

△元山管區　前期に比し賊徒の出沒減少せしも尚永興の西方山中に徘徊する賊徒約三十名は少數の群を成して附近を徘徊しまさして米穀を掠奪しつゝあり其他平穩なり

●討賊彙報

全羅北道鎭安守備隊より出したる討伐隊は十月二十日龍潭東南方二里半の地にて賊徒約十名を討ち其六を殪し三を捕へ銃四軍刀三を鹵獲す△全羅北道古阜守備隊より出したる下士以下四騎は十月三十日古阜西方四里半の地に於て約八十の賊を討ち其廿七を殪し銃十六と劍一を鹵獲す我兵一打撲傷を受く△平安南道寧邊分遣所の憲兵一補助員五は十月十九日咸鏡南道永興郡積德社附近に於て約七十の賊を討ち其七を殪し銃四を鹵獲す△海州守備隊より出したる討伐隊は同地巡査五名と共に十月十五日海州郡内に於て約四十の賊を討ち三名を殪し數名を傷け二名を捕へ銃二十二を鹵獲す

●討伐軍隊慰問

愛國婦人會韓國本部の唱導に係る討伐軍隊憲兵及警察官に對する寄贈慰問品は内地各支部より本部に到達の部渡第十三師團、軍司令部、憲兵隊本部及警務局へ夫々送納分配したるが其慰問袋は三萬以上に達し繪葉書調製代金の寄附も三千圓以上に達したる繪葉書三万三千組の外に將校及警官高等官及准士官には更に愛國婦人會徽章入りの美麗なる紗帛一万百十三枚を寄贈することゝなり目下東京白木屋に於て調製中なり右に付去廿二日頭本、道家、峯尾等の各當番幹事は倭城倶樂部に會合し打合せをなしたり

●仁川委員部の寄贈

赤十字社仁川委員部にて今回の總會に烟花打上げを寄贈する旨通報あり其種類は左の如しと

赤十字旗	陸海軍旗	祝砲
日韓國旗	來賓歡迎	統監旗
軍人	赤十字旗	看護婦
萬歲旗		

尚京城在住終身社員宮島鶴藏同秀子の兩氏は總會に金五圓宛寄附したり

●我武官の叙勳

十月十九日附を以て我陸軍將校に對し左の通り叙勳ありたり

陸軍少將勳二等　丸井政亞

叙勳一等賜八卦章　陸軍少將　小野寺實

叙勳二等賜太極章　陸軍步兵大佐　山本延身

同　同　太田朗

同　同　加藤丈

同　同　渡邊小太郎

陸軍一等主計正　田中政明

同　一等軍醫正　柴岡文太郎

陸軍砲兵中佐　飛松寬吾

叙勳二等賜八卦章　陸軍騎兵中佐　安東直康

同　步兵中佐　足立龜治

同　輜重兵中佐　久米猪一

同　二等軍醫正　藤崎芳一

叙勳三等賜太極章　陸軍工兵少佐　石岡猪四郎

同　步兵少佐　牛圓[illegible]二郎

同　同　家永直太郎

叙勳三等賜八卦章　陸軍步兵大尉　廣瀨秀彥

同　同　渡邊金造

同　步兵中尉　河瀨二郎

叙勳四等賜八卦章　陸軍步兵中尉　平柳竹志

叙勳五等賜太極章

●鑛業許可

十月一日より十六日迄許可左の如し

黑鉛二五七、九九八坪慶尚北道咸昌郡下西面鹽川勝太郎、黑鉛三七、五〇〇坪平安北道龜城郡梨峴面谷口與四郎、石炭六二五、七二五坪黄海道黄州郡松林坊吉田繁藏、平林貞藏、銀鑛一三三五、九九〇〇坪慶尚南道坂本長隆、金銀銅鉛鑛七三四、八二六坪慶尚南道同城縣九萬里車馬面山下卯一郎、山下泰三郎、銅金鑛六八二、四九六坪慶尚南道咸安郡北面清水爲政、志賀龜三、松本與吉、黑鉛五四六八、三六五坪慶尚北道咸昌郡上西面權藤茂邦、林重俊

●度支部官吏の妻木博士歡迎

度支部官吏中の有志者は明廿六日午後六時より別項妻木博士の歡迎會を花月樓に催す筈なり

●韓大官の傳習所視察

承寧府侍從長金春熙奎章閣卿趙同熙長老李重夏の諸氏は去廿三日東大門内なる工業傳習所に到り約二時間傳習生徒實習の狀況を視察せり

●獨逸海軍士官の入京

目下仁川に碇泊中なる獨逸軍艦アルコマ號乘組士官十名は昨日上陸入京慶熙宮を拜觀せり

●妻木博士の來着

大藏省臨時建築部長妻木博士は石原井上兩屬を隨へ一昨夜來城し天眞樓へ投宿す

●平賀博士の來韓

韓國工業顧問平賀工學博士は既報の通り去廿一日來着天眞樓に投宿し廿二日は早朝より工業傳習所に出頭採業の狀態を視且つ開所以來の經過其他を調査し廿三日は曾禰副統監並に木内農商工部次官を訪問せり

●高松博士歸東

日韓瓦斯會社技師長高松博士は廿四日午前八時三十分發歸東せり

公人私人

▲長谷川紫治氏（憲兵隊司令部附三等主計）廿三日入京山本旅館

▲小菅如淵氏（會計檢查院檢查官補）同上

▲佐藤剛藏氏（平壤同仁醫院長）同上

▲鎌田勝太郎氏（香川縣貴族院議員）二十三日來京天眞樓

▲上田榮次郎（農事試驗場長）同上

▲妻木頼黄氏（大藏省臨時建築部長工學博士）同上

▲麻生蔵氏（第一銀行群山出張所主任）二十三日出京原金旅館

近事片々

▲京童曰く韓國に過ぎたるもの三つあり大韓醫院佐藤博士伊藤公爵也と成程々々

▲大韓醫院は全く立派なるもの其設備の整頓せる佐藤博士の努力に多とするに足る

▲佐藤博士は[illegible]韓國醫界の開拓に從事せらる實に過ぎたり

▲伊藤公は帝國否東洋の大政治家なり其位亦大勳位公爵全く人臣の極是も亦過たり

▲統監政治批難の聲韓國に於て弗々火の手上る隱れたより現はるなしとはア、異論

▲萬朝報統監府の内情を嗅き始めたり[illegible]實政治として極力攻擊す稍々異を穿てる乎

▲統監が醜業婦を近づけ痴態を演ずる[illegible]に韓大臣等は益々附上るとは果して事實乎

▲次官等は不平不安を感じ互に嫉妬排擠漸く風を爲し自ら韓人化するを悟らずと喚

▲掲る所事實に近く能く事情に通せるは之れ何人の通信に依る乎其筆鋒更に進んで

▲曾禰副統監に及ぶ事實上の統監たらんとの野心を抱ける曾禰子も今や第二の鶴原也と

▲最も氣の毒なる境遇に陷入れり統監の傲慢なる曾禰子を見ること小供の如しと喚

▲意の如く手腕揮はれず終に木偶と化し今や進退谷る統監政治は能く木偶を造ると

▲果して然る乎來る者々皆木偶と化すは情なし石塚總務長官の前途や如何ならん

▲伊公は元老會議に統監辭任を申出でたるも至尊許し玉はずとの説あり眞なりや

▲是を以て近日歸任して大に統監政治の面目を革むべしとの説東京にて專らなりと

▲統監政治の面目を革むべしとは如何に革むるか公も少しは反省せられしと見へる

▲面目一新統監公には珍らし矢張り例に依り生溫き彌縫的糊塗に過ぎざるや

▲統監政治の内情漸次祖國に知れ渡りたるを以て段々世論八釜敷なる是れ當然のみ

▲統監政治の面目を一新せんとすれば茲に思ひ切たる大治療をなすの必要あるなり

▲宋内相の民望益々薄きも内閣に於ける勢望は愈々增大せりとの噂眞に盾矛の極也

▲後藤遞相近來氣餒なく内閣に於ては殆ど伴食唯是沈默を守る看と誠に是非もなし

▲殖民地のライオンは内地に歸りて猫と化せりと評す適役は矢張り殖民地經營者乎

▲[illegible]記者團寺天山近く北海道まで壯健に飛廻はりしに今は幽冥界に入る[illegible]



●基督教青年會演藝會

一昨夜本町坐に開かれたる演藝會は中々盛なりき余が行きたるときは未だ七時ならざるに観客既に充満せり、渡邊會長は開會の辭を兆重なる辯舌にて述べられ其趣旨能く徹底して感動を與ふ、劍舞によりて演藝は始られぬ二番目少年劍士の孤軍奮闘は観客思はず喝采したり、坂東水氏の尺八追分節は例によりて堪能なるものなり是も観客の喝采を博し且つ満足せしめたるは飛入りの博多仁和加なり謡曲及薩摩琵琶演者の缺席の爲に急捺へにて所謂與の仁和加より其不用意の處に却て面白味あり演者の一人紙面を被りて舞臺に現はれ説明して曰く元來博多仁和加は封建時代町人が武士の壓制を諷刺する爲に起りたるものなり然るに近來は唯々滑稽一方に流れて其本旨を閑却せるは遺憾也本夕は突然にて充分此主旨を發揮し得ざるも明晩は民長官撰問題にて一場の諷刺滑稽を演ずる積り也今夜の處は簡單なる師匠の失敗てふ題にて演ずべしと斷て開幕するや滑稽百出　其間に多少の諷刺を交へたる所詮素人としては頗る上出來所謂玄人も跣足なり場中破るゝ斗りの喝采を以て終り次には之も番付外落語三遊亭某なるもの登壇し輕妙なる滑稽談を演じて満場を笑倒せしめたり次でドクトルハーン氏のオルガンホッカー氏令息のヴァイオリン合奏次は酒井一座の乳姉妹海岸の場一幕を演ず例に依りて中々手に入りたるものなり最後は放心家と云へる喜劇にて小さき令嬢と大尉の令息と艶話を交ゆる邊尤も滑稽而して其両父が共に放心にして何事も直ぐ忘れ總て是れトンチンカンなる處は思はず腹を抱へて笑聲を發せざるを得ず要するに此演藝會は單調に失せずして能く調和を得たるを以て観客は大に満足せられたるもの丶如し

●京城基督教會

日の出町京城基督教會にては本日午前十時より同教會牧師米澤尚三氏の就任式を擧行する筈にて嚴重なる集會の下に教會總代の歡迎の辭同牧師の就任説教各教會の祝辭等あり閉會後直に南山公園にて盛大なる親睦會を催す筈なり尚ほ夜は七時より傳道説教あり演題左の通りにして何れも參聽隨意なり

心盤の救濟　米澤牧師

●本多監督の講話

本日旭町二丁目名古屋城内なる日本メソジスト教會に於ては本日午前十時より同派監督本多庸一氏の説教午後七時三十分よりは同監督の講話あり傍聽は隨意なり

●本願寺の日曜説教

長谷川町西本願寺に於ては本日午後七時三十分より鎌田開教使の説教あり篤志家は隨意參聽せらるべし

●美人の末路（五）

清淨無垢の處女の操を汚しながら僅か五十圓許りの目腐れ金で奇麗サッパリと手を切らうとは餘りに虫の好過ぎた話し此れが全で惜の切り賣りする端した女なら知らぬ事勇の肌とては後にも先にもアナタの外より觸れたことなき妾しの身体憖みものにしたアナタの思ひはソレで晴れもしたらうが爲れた妾しは一生の傷者タトヒ女の纎弱き身とはいへ是れでも浮世の浪に漂はされ酢いも甘いも嘗めつくした……エヽサ金が物言ふ世の中とやら……子若旦那……呑ツたれなことは廢しにしてサ……默つて子……此せしより男はゾッとする程打ち驚き虫も殺さぬ此の優さしき風情にて大膽にも脅し文句とは何事ぞ人は見掛に寄らぬものと今更女に關係せしを後悔せしも今となつては後の祭り已むなく父に縋りて百圓丈を調達し貰ひ仲裁人を頼みて無事に手を切ることゝはなりたり

其の後政江は何と思ひ付いてか再び京城に舞ひ戻り豫てよりの知る邊なる本町七丁目の北村といふ家に身を寄せ當坐は小金の有るまゝに今日は見物明日は遊山と樂しく日を送りける中懐ての金も乏しくなりけるより這度は何れへなり堅氣の家へ奉公せんものをと北村とも相談の上近所の口入屋に奉公先きを頼み置きしに程經て倭城臺なる統監府の高等官某の家にて頻りに下女を探ね居るとの事に早速同家に住み込みしがまだうら若き年頃とはいひ浮世の荒浪に揉まれ抜いだ身なれば來客への挨拶振り家事萬端の取りなしソレに家人への當りもやさしく至つて氣が利き居り普通の下女どしては何うやら勿体ない程なるより主人は一方ならず氣に入り何に彼につけて政江／＼と呼び果ては一家の財政向きをも任さるゝ迄の信用を買ふに至りたり尤も當時主人の奥方といふは病氣療養の爲め郷里名古屋に歸り居り只管全快の期の一日も早かれかしと祈り居るにつけても女の手とてはなき朝夕の且那の不自由さが思はれて今頃は嘸ぞかし困りのことならめなど明け暮れ且那の身邊を氣づかひ居る中にも病は追々と快方に赴き雖ては元の身体に復しけるより直ぐさま歸韓し久々に吾が家の閾を跨ぎたりしに這は如何に一人の見馴れぬ女の下女にしては氣品高く物のいひやう身体のコナシ何う見ても去る堅氣の娘御と外見受けられずしばしは不審の念に打たれしが稍あつて斯うと思ひ當り且那も且那僅か一月や二月の留守中タトヒ一人寝の閑淋しさとはいひ素性も知れぬ女をば引き入れ身分柄をも顧みず不義の樂みに耽らうとはチモ淺間しい心根と忽ち嫉妬の炎はムラ／＼と胸に燃え立ちしも流石は嗜みある身の罵聲も表には出さず却つて長らくの間心配ざ不自由とを掛けしをいともしとやかに謝しにき

商店覗き

▲日韓書房▼

單に京城にてのみならず韓國の書籍商中恐らく同店に對抗するものはなかるべし政治、法律、經濟、歴史は勿論其の他科學的及び文學的の書籍並びに教科書類一切小説からお伽噺の類に至る迄ありと總ゆる網羅し盡して餘すなし店の構へは辻屋と軒を並べし同普請にて建築嶄新規模宏大見るからに模範的店舗として泥峴街中一異彩を放ち居れり客足は頻繁にして二六時中絶ゑて顧客の影を見ざるなし若し夫れ晩景杖を曳いて店頭に至らんか群客雜沓容易に其の欲するがまゝの書籍を尋ぬるに由なき程なり宜なる哉數多き泥峴街筋の商店中其の賣上高の多額なる到底同店と比肩するものなしといふことや主人は森山美夫氏年少にして有爲而も事に當つて勤勉業に從ふ熱心常に店員を指揮して毫も倦むの色なく切々孜々の精勵一意唯他日の大成効を期し居れり過客叮嚀商風派手而も又加へて大膽なり

▲新井藥房▼

本店は仁川當地は支店なり藥房としては韓國切つての大親玉卸ろし小賣りの兩刀使ひ韓國十三道を擧げて販路の普及せざる地なし商風は文明流にてきび／＼しく常に商品の廣告に拔目なく看板に或は新聞に時に素敵な意匠を凝らして人目を驚かし堂々として唯我獨尊の概を示すもの流石は親玉丈の價値あり店員は着實主人は温籍何れも商賣の繁昌に腐心し熱心販路の擴張に從事するさまは世人の常に賞歎措く能はざる所とす場所は本町三丁目電話は四百七十八番なり

●馬脊喰ひのれ菊

本町六丁目より大和町一丁目に折れば二軒目に丸松と書いた薄暗い瓦斯燈を掛けた小料理屋がある表から見た所は如何にも氣味惡るそうなれど玄關の金張の衝立を立てあるに眼眩みて這入つて見る氣になり玄關の前に立はだかれば仲居らしき女が飛んで出でイラッシャイといふので誰れか見ては居ないかと恐る／＼下駄をぬぐが早いか二階に驅け上り案内さるゝ儘にとある一室に胡座をかきながら部屋の四方を見れば障子は穴だらけ壁は破れ疊は埃りで鼠が巣でも拵らへはせぬかと怪しまれ薄氣味惡きこと云ふばかりなく併し此まで踏み込んだ以上今更退却する譯に行かず糞度胸を据へて酒肴をと命じたればやがて杯盤は座の前に並べられ酌をと銚子を取上げたは菊といふ今年十九だすと自ら名乗る大坂訛りの水の低きにつくと云ふ調子仲々のお曉舌りなれどドウやら九州訛りが混るから此女奴と出し抜に前は博多ぢやないかといつたら菊は目を丸くしてオヤマア貴郎……ではといつたばかり脂臭い歯をムキ出してオホと笑つたのでこれから聞いたのだと拇指を鼻の先きにウンと突出せば菊は何と思つたのか眞面目になつてホンにマー北村さんは醫がれ上手なの妾し大變贔負してよと東京の東も見た事のない癖に江戸言葉とは生意氣ナと思ひながら探りて見れば此れ菊こそ壯佛の來る毎に誰れ彼なしに持掛けたるが仲にも好きなは北村どいふ馬の脚なりしと馬の脚喰ひれ菊の云はれ因縁書の如し

●惡風の剗除

請負工事とさへいへば從來の慣例上過分の利益あるものとは一般世人の熟知せる所從つて諸官衙等にて請負入札行はれ終局或る者の手に落札さるゝこととなるや不埒にも他の請負者等の配下たる破落漢らしきもの寄つて集かつて其の落札者を脅迫し何等かの飲み代を強請するは常に有り勝ちのことにて風紀上甚だよろしからざることなるが當南部警察署にては痛く之を患へ豫てより此に注意しつゝありしが現に去る二十二日龍山に於て行はれし軍司令部の一部工事の入札のありしときなどは此等の破落漢平常より仁川より押し掛け居るより警官出張し嚴重なる取り締りをなせし爲め些の弊害なかりしとは近來喜ばしきことゝいふべし

●菊見案内

豪霜に堪へ獨り其馥郁たる芳香を放つは菊花なり今や既に其芳香を放ちつゝあり幸ひ本日は一週一回の安息日にて天高く氣清く郊外の散策には最も妙なるも此芳香に接するも亦た甚だ床しからずや此に菊花を賞せんとする人に聊か案内の勞を取らん遠くは東大門内馬頭山の麓にある京城植物園、西大門外酒見金華園等は異種の菊花最も多く好尚の人は是非一見すべきなり又た新町遊廓にては皆春樓を始めとして大桝屋、第一樓、京城樓、山遊樓等多種の菊を栽培し居れるが中には隨分優等の花種少からずと云ふ併し是非とは勸め申さず

●山遊樓の菊花

別項「菊見案内」にて記せし中山遊樓の菊は却々に見事なるものにて殊に養老の瀧、燭光の錦、國の玉露の三種は殆んど他に類のなき逸品なりとか尤も樓主山下氏は元植木業を營み斯業に就ての經驗深き丈ありて其の栽培方も巧みに從つて花の種類も一寸目先の變はりしものゝみなり種類は三百五十四種今が盛りの見頃なり

●巷のいろ／＼●

●バケツを窃む　一昨日午後二時頃銅峴分署巡査が竹洞邊を巡廻中三十三統李春植なるものがバケツを盜んで行く處を取押へ本署へ引致す

●車夫悲鳴を上ぐ　一昨日午后八時半頃巡廻の巡査が長谷川町一丁目を通りかゝりたる際同町富田洋服店前に於て一名のヨボ車夫悲鳴を揚げ居るより取調べたるに只今舊皇城前より乘せ來たりし某日本人に十五錢の賃錢を請求せし所を不當なりと云ふ間もあらせず持てるステッキにて睾丸を突き何所へか逃げ失せたりといふより巡査は早速應急の手當を施し歸らしめたり

●盲人ヨボの亂暴　一昨日午后七時頃旭町三丁目片山勘太郎方の表門を打ち破る物音せしより驚き立ち出で見れば二名の盲人酒に醉つ拂ひ頻りと門を叩き居るより直に取押へ南部署へ訴へ出でたるが結局嚴重なる説諭を加へて放還したり

●莫連女　東京淺草生れの星千代（二三）なるは昨年六月頃より新町第一樓で娼賣中借用物費消罪として重禁錮一ヶ月に處せられたる肩書付きの女なるが同年十二月卅一日太平町二丁目飲食店德永市助方の酌婦に入り込まんとて四十圓の前借約束をなし差しつめ衣物代として市助より二十圓を借り雲がくれをなしたるが此程捕へられ昨日當理事廳に於て重禁錮三年の刑を言ひ渡さる

●ズック泥棒の處刑　奈良縣葛城郡吐田郡村現住居櫻井町漢城衛生社事務員たる高宮俊彦（二二）は本年三月中龍山なる第十三師團倉庫の錠前を切り破り所藏のズック十三反を窃取したるが昨日重禁錮三ヶ月に處せられたり

●窃盗犯の處刑　佐賀縣生れ筒井平五郎（三二）が窃盜犯として當理事廳に記訴されたる事は當時の紙上に記したるが昨日重禁錮三ヶ年の刑を宣告されたり

落語

一ツ穴（九）

橘屋圓喬口演

權「旦那の傍に女が然うよノーモー二十一二にも成るかノー色の白へノ夫に着る物と云ひ何うも夫やア奥麗な女だつて……那んなのがあるんだもの貴女アから見るとナニ先方が工合好くねエ……黙て何かクツ〳〵云ひ出したが夫やア好いけんど終へに聞くてと氣に喰ねへ乃公アこと鍋の尻だつて其女ア云ふんだ

妻「何だか理由が分らないョ

權「乃公にも分らねへだ

妻「夫から何う爲たい……

權「段々見て居ると[illegible]たね

妻「何が……

權「何がつて晝日中見つ共無へ取付たり縋付たり爲て居たかと思ふと障子閉つちまつたゞ、ーッと驚く樣に額に饒倒爲ちまつた

妻「大きに難有う……妾はモー然んなことだらうと思ふから和郎に願んだのだが其女の家と云ふのは何處なんだい

權「柳橋の何とか云ふ處を眞ッ線に往て曲るだ

妻「分らないねへ……

權「乃公も忘れちまつたゞ往て見なけりやア分らねへだ

妻「れ前後生だから一緒に來てお呉れな

權「何處へ……

妻「何處へつたつて妾は行くョ旦那樣にれ目に掛るョ

權「逢て何う爲るだい

妻「逢て何う爲るつたつて知れた事ぢやア無いか男の働きだから何を爲るのも好いけれども旦那樣が何う被爲る御了見だか思召の上何とでも妾は話しを爲るョ連れて行きなョ其處へ……

權「此りやア私れへ事に成たなア夫やア行くのは好く無からうよ

妻「奈是……

權「奈是つたつて戰爭だつて此方に居て爲るのと先方へ出張るのとは五分の損がある然んなことを爲すに家だから何日か一度は歸るに違へ無へ其時に酷い目に合して御遣んなせへ乃公ア蔭下しで旦那の面へ傷を付けて遣るから

妻「旦那に傷を付けて濟かい……連れて御出でョ……連れて行なさやァれ旦那と一ツ穴の狐だね

權「狐とは過激かんべい……

妻「然んなら連て行きなョ連て行かない所を見ると可笑しいぢや無いか

權「ちやア連れて行くべい乃公だつて人間だ狐と云はれては心好く無へ……然し行くが手所謂夫婦喧嘩で落着ねへてへ限りは無へた夫婦が直つた時に誰が此處へ遣した權助が數へたと云つちやア嫌だから〳〵斷つて置く……

●新聞料　一枚金二錢　一ヶ月前金三十錢　六ヶ月前金一圓　…

●廣告料　五號活字十九字詰一行一回四十錢　…

發行兼編輯人　秋山忠三郎
印刷人　高木久[illegible]
發行所　京城新聞社